



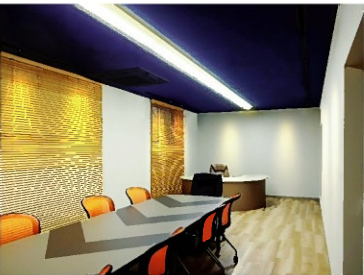
## ARCHITECTURE REVIEW



### 建築見て歩記 その71

安藤忠雄、1982年設計の「九条の町屋」です。コートハウス形式で敷地全体を壁で囲っており、右の玄関から入ると、ヴォリュームの真半分を占める、空の見える中庭になっています。名作住宅の一つですが、現在その左隣に、ほぼ同じボリュームの建物が建っています。設計者は違いますが、隣家へのリスペクトが現れており、好ましい姿勢だと思います。

## CURRENTLY WORKS



### [会] ROOM — 新社長室兼会議室の設え

新社長のため「社長室兼会議室」をデザインしました。新社長が弓道を嗜んでいることから、部屋全体を弓道場と見立て「和」を感じる設えにするとともに、「的」をイメージした半円形のデスクと、「矢羽根」をイメージした会議テーブルもデザインしました。弓を引き絞った緊張の一瞬を「会」と呼ぶことから、この部屋を「会ルーム」と名付けました。

## PRIVATE TOPICS



### 藤原のこだわり その15

京都の奥嵯峨にある「祇王寺」です。尼寺で平清盛とそのゆかりのある母子の木像が安置されています。何度も廃寺の危機にさらされましたが何とか復興し、今では苔の庭が美しい観光名所となっています。庭というよりは、森の中に佇むような立地になっているので、新緑・紅葉の時期に行くと、いっそう「自然の美しさ」を堪能できる場所になっています。

## EDITORIAL NOTE

6月は「水無月」とも言います。梅雨で、雨が多いのに、なぜ水が無い？…と思ったことはないですか？調べてみると、この「無」は「の」を意味していて、まさに「水の月」を表しているとわかりました。また、「田植え」の時期でもあり、田に水を張った風景が広がり、水が満ちる月だからなのでしょうね！

編集担当：太田・藤原、監修：岡島